

賛助会員 CSR 紹介

CNCP 通信 Vol.37 から「賛助会員 CSR 紹介」を掲載します

— 社会貢献・市民交流活動が始まります。 —

CNCP 常務理事 **皆川 勝**（東京都市大学工学部都市工学科教授）



土木学会では、土木技術者の「社会貢献」の形として、シビル NPO 活動を行う市民団体（NPO 法人・NPO 任意団体）の支援や直接的な社会貢献の担い手組織を目指して、100 周年記念事業の 1 つとして、CNCP を設立した。収益事業に関しては事業推進部門が種々の取り組みを行っている。しかし、いまなお、CNCP は法人賛助会員企業の金銭的サポートなくしては成立しえないのが現状である。

土木学会では、これと並行して、教育企画・人材育成委員会内に「シビル NPO 推進小委員会」を設置して、シビル NPO と学会との連携・協働の活発化をねらって活動を行っている。平成 28 年度にはその中で特に社会貢献・市民交流に関わる検討をする WG（主査：皆川勝）を設置し、CNCP 法人賛助会員等の企業活動をも含めたより広い意味での非営利的活動の実態を把握して広く社会に発信することを目指している。具体的には、以下の二つを具体的な取り組みを考えた。

土木学会学術文化事業「シビル NPO 推進を目的とする官民連携と産民連携の可能性と阻害要因に関する調査活動」を通じて建設関連企業が潜在的に持っている社会的企業としての性格を明らかにして、建設界への社会や市民の理解促進に資すること、

その成果をもとに、学会活動の中核である建設関連企業の社会貢献・市民交流、そしてソーシャルビジネスなどを顕在化するために、学会主催の大規模フォーラムを目指すこと。

有岡、駒田、皆川の 3 名は上記の目的で、平成 28 年 12 月から平成 29 年 2 月にかけて、CNCP 賛助会員企業を中心にゼネコン 11 社、コンサル 5 社にインタビューを行った。その結果、以下のような実態がわかってきた。

建設企業は本業とそれ以外の活動を社会貢献活動ととらえている。

CSR(Cooperate Social Responsibility) で表される“責任”としての活動から、CSV(Creating Shared Value) で表される、市民を含む様々なステークホルダーと共有できる価値の創造の活動へと、建設系企業の事業の捉え直しが急速に進んでいる。

社会への貢献の実態を社会や市民と共有する活動は不十分で、土木学会や CNCP との協働の価値は大きい。

現在、インタビュー結果の整理の段階から成果のとりまとめの段階へ入るところであるが、これと平行して、建設企業各社における社会貢献・市民交流活動の紹介をこの CNCP 通信の場で継続的に行っていく計画である。当初の目標設定におおきな誤りはなかったと認識できたことから、今後、賛助会員企業の方々と、CNCP・土木学会の協働活動を本格化して、建設界への社会や市民の理解を促進したい。